

長崎原爆投下日の天気の記事を検証する

山本 竜也（札幌管区气象台）

1. はじめに

1945年8月9日、原爆が投下された日の天気を長崎市民はどう記憶しているか。メディア関係者によると、「雲が多かった」との証言がある一方で「よく晴れていた」との証言もあり、長崎原爆をめぐる謎のひとつとされてきた。しかし、いずれが多いのか、また、その理由を調査した例はない。本研究では、長崎原爆に関する数々の証言から天気に関する記述を探し、その実情を調べる。また、当時の日記と気象観測資料を解析することによって、証言がばらつく理由を明らかにする。

2. 証言の収集とその分類

長崎原爆に関する証言は、当日に書かれた日記から戦後79年目の今年なされたものに至るまで、さまざまな書籍や新聞などに掲載されている。それらから天気に言及した証言を探したところ、408件が見つかった（ただし、落下中心地から10km圏内にいたと思われる人に限る。また、投下後は、きのこ雲や降雨による影響を受けている例があるため、投下時や投下前の天気の証言のみを対象とする）。それらを「快晴」「晴」「雲あり」「雲多い」の4種類に分類した。「快晴」には「雲ひとつない晴天」といった表現を含む。「晴」には「いい天気」「よく晴れた」「ジリジリと照りつける暑い日」といった表現を含む。一方、少ないながら雲があったという証言、たとえば「真っ青な夏空に白い雲が浮かんでいた」「晴天にわき立った入道雲の中から突然、白い飛行機が現れ」などを「雲あり」と判断した。「雲の多い蒸し暑い日でした」「雲間に飛行機が見えました」

などは「雲多い」と判断した。

その結果、408人の証言は、94人（約23%）の「快晴」、250人（約61%）の「晴」、39人（約10%）の「雲あり」、25人（約6%）の「雲多い」に分類できた。

3. 気象観測資料

当時の長崎測候所は落下中心地から南南東へ約4.8km離れており、原爆投下にもかかわらず観測を続けた。USSBS（米国戦略爆撃調査団）が1945～1946年に同測候所や中央气象台から入手した資料によると、当日の雲量・雲形・天気・日照時間（ジョルダン日照計）は表1の通りである（山本 2023）。6時は雲量3の晴れ、7時は雲量7の晴れ、8時は雲量1の快晴、9時は雲量8の曇り（当時の基準。現在なら晴れ）、10時は雲量7の晴れ、原爆投下時の11時は雲量7の晴れであった。

表1：1945年8月9日の気象観測記録

USSBSの資料から長崎測候所の観測記録を復元した。雲形の記号は、以下を指す。C:巻雲。CS:巻層雲。CK:巻積雲。KC:高積雲。SC:高層雲。SK:層積雲。K:積雲。KN:積乱雲。雲形のあとのカッコ内は雲量。一部時刻のみ、個別の雲量の記録が残っている。

時	全雲量	個々の雲形と雲量	天気	日照時間
6	3	SK(2), CK, KN, KC	晴	0.00
7	7	KC, SK, K, KN	晴	1.00
8	1	K, SK, KN	快晴	1.00
9	8	K(8)	曇	1.00
10	7	K(7)	晴	0.70
11	7	K, CS	晴	0.69
12	9	KC(9)	高曇	1.00

4. 日記の天気表現と観測記録

測候所の観測した天気に変化があったのだから、証言が「快晴」「晴」「曇り」「雲多い」とばらつくことは納得できる。また、証言のうち日記が9件あり、いずれも天気を「晴」と記録していた。当日に「晴」と判断する人が大半なのだから、「晴」と振り返る人が多いことも不思議はない。

だが、雲が多い日に、晴れていると感じるものだろうか。庄建治朗ら(2017)は、明治・大正期に京都付近で書かれた8つの日記にある天気と測候所が観測した日平均雲量を比較し、「晴」は日平均雲量0~10にまんべんなく分布すること、「曇」や「雨」は日平均雲量7~8以上に分布することを明らかにしている。

そこで、長崎市民の日記と測候所の観測記録を同様の手法で比べる。原爆投下日前後に記録された長崎造船所社員、深堀福市の日記(170日分)、三菱製鋼所社員、安中昌吉の日記(168日分)から天気を拾い出し、日平均雲量および日照率との関係を調べた(図1)。「晴」の日の日平均雲量は0~10にまんべんなく分布し、「曇」の日の日平均雲量はおおむね8以上に偏在した。一方、「晴」の日の日照率もばらつきはみられるが、0.6以上になると、雲量にかかわらず、ほぼ「晴」と判断されていた。原爆投下日の日平均雲量は7.2、日照率は0.86であった。2人とも、日平均雲量が7以上であっても「晴」と記録する日は少なからずあったし、日照率0.8以上で「曇」と判断した日は一日もない。この日は雲が多くても、2人が「晴」と判断したのは合理的である。

5. まとめ

「晴」の判断は日平均雲量よりも日照率が影響することが分かった。原爆投下日が晴れていたと記憶している人が多いのは、当日の日照時間の長さによるのだろう。一方、雲が多かったと証言する人は

実際に空を見上げていたと思われる。朝に一時的に雲が少なかった時間帯があったので、快晴との証言もおかしくない。いずれの天気証言も気象観測記録から説明できる。

参考文献：

山本竜也：気象観測資料からみる長崎原爆の日の天気，空襲通信，第25号，pp34-43，2023.

庄建治朗・鎌谷かおる・富永晃宏：日記天気記録と気象観測データの照合による梅雨期長期変動の検討，水文・水資源学会誌，第30巻，第5号，pp294-306，2017.

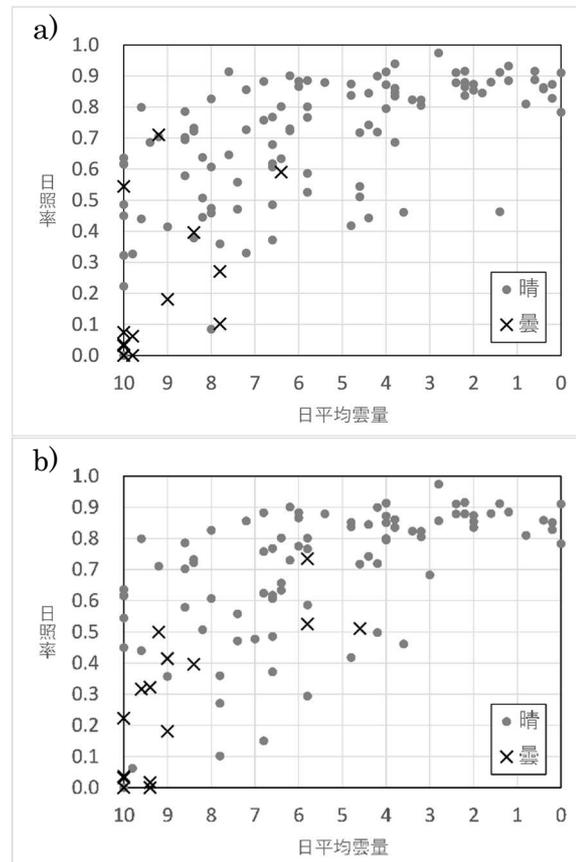


図1：日記の天気表現と日平均雲量・日照率の関係 a)深堀日記 b)安中日記

深堀日記の「晴」は107日、「曇」は14日、安中日記の「晴」は88日、「曇」は17日であった。両人とも、日照率0.8以上なら、雲量にかかわらず、かならず「晴」と判断している。